

第6学年道徳学習指導案

令和5年〇月〇日(〇)
授業提案者 宮田 諒

1 主題名 自分の心に誠実に (資料名「手品師」光村図書)

2 ねらい

手品師が男の子との約束を守ろうと決意するまでの気持ちを考えることをとおして、誠実であるためには、様々な葛藤を乗り越えた自分の選択が大切であることに気付き、よりよく生きるために、物事に対して誠実な対応をとろうとする心情を養う。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目A-2「誠実に、明るい心で生活すること。」をねらいとしている。誠実には、私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対するという意味がある。また、周りの状況に流されずに自分が信じたことを選択する様子でもある。誠実であろうとすることは、よりよく生きていく上でも必要なことである。

この時期の子どもたちは、自分の思うとおりに生活をすれば気持ちが晴れ晴れすることを理解しながらも、嘘をついたりごまかしをしたりしてモヤモヤしたという経験をしてきている。一方で、周りからの目を気にする時期でもあり、自分の気持ちを優先するだけでなく周囲と折り合いをつけながら生活していこうという気持ちも芽生えてきている。

このような内容を学習することは、誠実であるとはどのようなことなのか考え、よりよく生きるために、物事に対して誠実な対応をとろうとする心情を養っていく上で意義がある。

(2) 児童について

本学級の児童は、素直であり、思ったことを正直に伝えることができる児童が多い。また、相手の立場になって考え、自分の考えとの相違に気付くことができる児童が多い。一方で、友達のやりたいことを優先しすぎて、本当に自分がやりたいことを言い出せずに周囲に合わせってしまう児童もいる。これは、自分が思っていることを正直に言えず、自分が我慢すればよいという考えに基づいていると考えられる。

道徳科学習においては、登場人物に共感したり、友達との話し合いをとおしてテーマについて深く考えたりできる児童が多い。また、心情円やスケールチャートを活用して自分の考えを視覚化することで、積極的に友達と交流しながら考えを深められるようになってきた。一方で、互いに、質問し合う中で、多様な意見を基にした建設的な議論をし、よりよい考えを導き出していくまでには至っておらず、今後も指導を続けていく必要がある。

(3) 資料について

そこで、読み物教材「手品師」(光村図書)を用いて学習を進める。本教材は、腕はよいが売れない手品師が、一人の男の子に手品を見せ、喜ばせたことで翌日にも会う約束をする。しかし、その日の夜に友人から夢だった大劇場出演の依頼を受け、「夢の大劇場の出演」と「男の子との約束」との間で葛藤の末に男の子との約束を選択するという内容である。

(4) 指導について

この教材を用い、ねらいと向き合わせるために、導入では、教材の範読後すぐに本教材から手品師が何に悩んでいるのか問うことで、手品師が夢の大劇場と男の子との約束で悩んでいることに気付かせ、本時の教材で考えていく内容についての問題意識がもてるようにする。

展開では、夢の大劇場に挑戦してみたいと思う気持ちと、男の子との約束も大切にしたいという手品師の葛藤をペア活動で役割演技させる。その後、代表児童に役割演技で表現させ、出た発言等を構造的に板書し、手品師の葛藤に気付くことができるようにする。そして、手品師が男の子の前で手品を決意した際に後悔はなかったのか、心情円を活用して手品師の心情を考えさせる。手品師が男の子との約束を選択した理由を考

えさせる中で、適宜問い返しを行い、誠実に生きることについて考えを深めることができるようにする。

終末では、手品師の生き方に学ぶことはどんなことか考えることをとおして、手品師の葛藤が誠実に生きたいという悩みであることに気付き、考えを深めるようにする。また、誠実に生きることの難しさや自分の思うとおりに生活していくことの大切さにもふれ、自分たち生き方をより良いものにしていきたいという気持ちに気付くことができるようにする。

4 事前・事後指導

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生活の中で、2つの選択を迫られた時の心の葛藤があることに気付くことができるように、みんなで遊ぶ日の出来事など児童にとって身近な出来事を列挙しておく。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の選択に後悔がないように、自分の思いをしっかりと伝えられる雰囲気づくりに努めるように声かけを行う。 ○ 誠実に生きることが難しいことを踏まえた上で、自分の思うとおりにできた経験を積ませ、自分の今後の生活に生かしていく。

5 学習指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
<p>1. 読み物教材「手品師」を基に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手品師は何に悩んでいるのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・大劇場と男の子との約束のどちらを選択するか悩んだ。 ・自分の夢のチャンスを失ってまで男の子との約束をとるか <p>2. 学習テーマを知る。</p> <p>2つのうちどちらを選ぶか迷ったら…</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友人から電話が来た時、手品師はどんなことを考えていたのだろう。 <p>[大劇場に行こうとする立場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活が苦しい中で大舞台上に立てるチャンス ・夢に見た舞台上でできる喜び ・売れるかもしれない嬉しさ <p>[男の子との約束を守ろうとする立場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目を輝かせて喜んでくれた男の子にまた喜んでほしい ・先に約束したのは男の子だから ・男の子を悲しませたくない ○ 手品師が男の子との約束を決意したとき後悔はなかったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・夢の劇場を諦めたわけではないけど、約束を大切にしようと思っていたと思う ・男の子の喜ぶ顔を大切にしたい ・後悔もあったと思うけど自分の選択を信じていた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の範読後すぐに本教材から手品師が何に悩んでいるのか問うことで、手品師が夢の大劇場と男の子との約束で悩んでいることに気付かせ、本時の教材で考えていく内容についての問題意識がもてるようにする。 ○ 手品師の葛藤をペア活動で全員に役割演技を経験させることで、大劇場と男との約束の立場のどちらも大切な選択であることに気付かせる。 ○ ペア活動の後、代表児童に役割演技をさせることで、役割演技で出た発言を構造的に板書し、手品師の葛藤を視覚的に理解できるようにする。 ○ ロイロノートの心情円を活用することで、全体の考えを視覚化できるようにする。 ○ モヤモヤが残っていることが悩みであることを共有することで、その悩みが誠実に生きたいという悩みであることを理解できるようにする。 ○ 児童の発言に適宜問い返しをすることで、誠実に生きることについて考えを深め 	<p>読み物資料 「手品師」 挿絵</p> <p>タブレット ロイロノート (心情円) 大型テレビ</p>

<p>3. 手品師の生き方から、自分のより良い生き方について考える。</p> <p>○ 手品師から学ぶことはどのようなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の選択に後悔がないようにする ・その後自分が良いと思った方を選ぶ ・自分でしっかりと決めること 	<p>ることができるようにする。</p> <p>○ これから誠実に生きていくためにどのような考えが必要か問うことで、難しい選択を迫られたときに、自分の心に真っすぐに行動することの大切さに気付けるようにする</p>	
--	--	--

6 本時の評価規準

主人公の心情の変化やこれまでの自分の行動のふりかえりを基に、誠実に生きる意義について考え、誠実に生きる難しさやその大切さを理解しようとしている。 【道徳ノート】

7 板書計画

